学びの広場

立花学園高等学校の特色ある活動

まつだ観光まつりへの参加や町文化祭への出演など本町となじみの深い立花学園高等学校の特色ある活動について寄稿いただきました

【問い合わせ】教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

立花学園高校は、この松田の地で85年を超える長きにわたり、教育に携わらせていただいてきました。その間、地元の皆様にご理解とご協力を賜り、大変感謝しております。

近年本校は、生徒・教職員一丸となって、特色のあるよりよい学校づくりに奮闘しております。今回はその一端をご紹介したいと思います。

《学習・進路》3つの進学コースを設置

本校には三つのコースが用意されています。特進（特別進学）コースは、難関大学を目指す生徒が在籍しています。進学コースは、部活動と学業の両立を目指す生徒が在籍しています。総進（総合進学）コースは、進路を大学に限らず、短大や専門学校、就職の中から選択したいという生徒が在籍しています。

特進コース オーストラリア語学研修

難関大学を含め400名近くが大学合格

生徒達の進路を実現させるため、本校には学力向上の仕掛けがいくつかあります。一つは、「家庭学習ノート」という、家庭学習を習慣化するためのシステムです。生徒は全員、一日一時間程度の学習をこのノートで実施してくるのです。

もう一つは、希望する生徒に「＋αゼミ」という講座が用意されていることです。理解度に合わせて、基礎的なものから難易度の高いものまで何クラスか設けられています。また、この講座を受けているものは、有名予備校の授業を、パソコンを使って受講することもできます。

さらに、希望者を対象とする「勉強合宿」や、全学年で同じ問題に取り組む「全校一斉試験」も実施しております。

このような取り組みの結果、昨年度は中央大学・立教大学等の難関大学を含め、400名近くの大学合格者を出すことができました。

《学校行事》最大の行事は「体育祭」と「立花祭」

本校では、様々な学校行事を用意しています。

4月末に実施される「大雄山登拝」。これは、南足柄市の大雄山最乗寺に、徒歩で参詣する一年生の行事です。さらに「オリエンテーション合宿」・「球技大会」・「社会見学」・「芸術鑑賞」（近年は「劇団四季」の舞台を鑑賞）なども実施しています。

そして最大の行事は、「体育祭」と「立花祭」（文化祭）です。この二大行事の特徴は、生徒会が中心となり、生徒の自主的運営によって、毎年バージョンアップしているところです。自分達が作っているという実感があるため、終了後感動のため涙する生徒も少なくありません。

大雄山登拝

迫力満点　体育祭

修学旅行は「シンガポール」語学研修は「オーストラリア」

また、シンガポールへの「修学旅行」（写真）は、生徒にとって忘れられない行事です。ただし、特進クラスだけは、「修学旅行」ではなく、オーストラリアへの「語学研修」を実施しています。どちらも、異文化に触れることで、貴重な体験を生徒達にもたらしているようです。

《部活動》最大の特色は「礼儀正しく他の模範に」

本校では「部活動合同ミーティング」というものを実施しています。全校生徒の約七割が集まります。これによって各部間の横の連携が生まれ、他の部の応援に行くことも当たり前になっています。

このような状況の中、各部の活躍も目立ってきました。男子バドミントン部は、今年団体戦で県三位になり、二年連続関東大会に出場しています。個人では陸上部も関東大会出場を果たしています。柔道の個人戦で、ジュニアの大会で県大会準優勝し、関東大会に出場した者もいます。

また、県ベスト16以内の部活は珍しくありません。野球部は三年前の夏の大会で、東海大相模高校に勝ちましたが、今年は二回戦で姿を消してしまいました。そのため、来年こそはと雪辱に燃えています。

本校の部活動はただ強ければ良いというのではありません。「礼儀正しく他の模範になること」が求められています。これが、本校の部活動の最大の特色ではないでしょうか。

関東大会2年連続出場 男子バトミントン部

雪辱に燃える野球部

《最後に》

教諭　中川　清人

本校では、生徒が大きな声で挨拶をするのは日常のことです。中には立ち止まってきちんと礼をしてくれる生徒も少なくありません。かつての本校と現在との一番の違いは、そんなことかもしれません。生徒達が、明るく元気よく礼儀正しいことを、本校としては誇りに思っています。

松田の文化財探訪

「神山・町屋コース」（その1）

江戸時代後期に編纂された『新編相模国風土記稿』「神山村」の項に、2筋の道の記述があります。

一つは、下茶屋の「左　ふじ・さい志ょうじ道」の道標から、屋号・ランプ屋（川久保商店）さんの前の県道に出るやや狭い道。

一方、神山神社と阿弥陀堂の間からの下り坂の道で、お酒も提供したお茶屋の山田屋さん（ご当主談）の前の道が、先の県道で合流・直進し、日吉大社を総本宮とし祭神は大山くいの神の「お山王さん（山王社）」や「人馬継立場」の田中屋さんの前を通ります。店屋場に至ると左側の駐車場の一隅にあります卵型の「水神碑」は明治2（1869）年町屋の人が建てたもので往古には8月の二十六夜さんには碑に、注連縄（しめなわ）を張り祭祀を執り行ったと言う話を、店屋場にお住いの方から情報をいただきました。

（店屋場の水神碑）

此処から町屋踏切に向かい元村役場であった尾登さん宅（382番地）の前を左折し、町屋の「お山王さん」から人馬継立場であった「黒塀の遠藤さん」の前を通ります。

当時としては珍しい2階建のお茶屋の橋本屋さん、その先の旅籠の十文字屋さんの前の金子堰（十文字堰）沿いに、三角土手に向かう道筋です。

神山と町屋は似ていて、双方に「人馬継立場」があり、明治10年代には双方が初の郵便局を開いていますが、これは継立場として飛脚業務を担っていたためです。

また、山王石祠（せきし）をはじめ各種の石造物を有する「お山王さん」という村民の信仰スポットもあります。神山には継立場や休宿泊施設のある場所には不可欠な高札場も神社の玉垣（たまがき）下・三叉路の処に宝暦10（1760）年に建てられていました。

（下茶屋の道標）

《矢倉沢往還2》

文化財保護委員
草門（くさかど）　隆（たかし）